

佐久総合病院再構築に伴う
臼田地区のまちづくりに向けた提言
(中間報告・提言)
(案)

平成24年 月 日

臼田協働まちづくりワークショップ

～ 目 次 ～

はじめに	1
コンパクトシティ構築のために	1
I 医療と健康・福祉・介護のまちづくり	2
1 医療	2
2 保健・健康	3
3 福祉・介護	4
4 開かれた病院づくり	4
II 便利で活力のあるまちづくり	5
1 経済	5
2 観光	6
3 道路・駐車場	7
4 医療・健康・福祉	7
III 安全・安心・やさしいまちづくり	8
1 佐久総合病院西側道路の歩道整備	8
2 佐久総合病院東側道路の拡幅整備	8
3 千曲川遊歩道と歩道橋の設置	9
4 公園整備	9
5 駐車場整備	10
臼田協働まちづくりワークショップ開催状況	11

はじめに

佐久総合病院の再構築問題については、平成21年2月に長野県厚生農業協同組合連合会、佐久市、長野県の3者により長野県知事裁定案に合意がなされ、「厚生連は臼田地区住民により具体的に説明し、不安を解消していくものとする。」となっており、また平成21年9月には厚生連と佐久市とで覚書が締結され、「佐久市は、厚生連及び地域住民と臼田まちづくり協議会（仮称）を設立し、まちづくりを進めていくこと。」と確認がされました。

このことを受け、平成22年7月に「臼田まちづくり協議会」を設立し、佐久総合病院再構築に伴う臼田地区住民の不安を解消するため、臼田地区在住、在勤者の公募により「臼田協働まちづくりワークショップ」を平成22年10月に組織し、「健康」・「活力」・「安全」の3つのテーマ別グループに分かれ、話し合いを行ってきました。

平成23年9月に佐久総合病院の本院基本構想（案）が示され、今後具体的な基本設計・実施設計が示されることから、中間報告・提言をまとめました。

この提言は佐久総合病院再構築を契機に、臼田地区住民にとって、医療・福祉・介護等の社会基盤が整備・充実され、日常生活においても便利で、住みやすく、多くの人が行き交う、活力あるまちづくりを進めるためのものです。

また、この提言では時間等の制約から佐久総合病院再構築と直接関わりの強い周辺地域や、臼田地区の住民にとって健康で安心・安全な日常生活を営むことのできる中核的な地域づくりに的を絞って検討を進めてきました。

したがって、今後も佐久総合病院本院の再構築の進捗状況を見据えながら、臼田地区の活性化と地区全体の自然・歴史・文化を包含した魅力と活気のあふれたまちづくりの検討を進め最終提言をしたいと考えております。

※この提言で優先される順位として、次のようにしました。

- ①最優先 「…すべきである。」
- ②優先 「…必要である。」
- ③要望 「…望ましい。」

コンパクトシティ構築のために

～ 臼田地区の中核的地域「コンパクトシティ」を構築し、それを支える社会的基盤の整備を進めるべきである ～

1. 臼田地区は、「子どもから高齢者まで誰もが住みやすく、佐久総合病院の機能を活かした医療・福祉の充実したまちづくり」が必要である。また、臼田地区住民にとって健康で安心・安全な日常生活が過ごせ、住民ニーズが充足できるワンストップ的機能をもった地域、いわゆるコンパクトシティを整備すべきである。このコンパクトシティは佐久総合病院、中央商店街を中心に半径数百m程度の範囲が妥当であり、次のような機能を整備すべきである。

- (1) 日常生活の衣食住に関するニーズに応えられるような各種店舗が集積している。

- (2) 行政、銀行、郵便局、警察等の各種社会的手続きに関する機能が集積している。
 - (3) 駐車場や通行体制が整備され、安心安全に利用できる。
 - (4) 健康維持や医療受診等に関わる佐久総合病院と開業医、薬局・薬店、包括支援センター等との連携体制が整備されている。
 - (5) 内外の来訪者が気楽に交流、団らんができる、複合的オアシス広場が整備されている。
2. コンパクトシティの中心である、佐久総合病院前交差点から臼田中央交差点までの区間は空き店舗も存在し、有効利用できているとは言えない現状である。したがって、この区間を区画整理事業や病院所有地との交換など、一体となった整備を検討すべきである。
 3. 佐久総合病院の再構築に伴い、臼田地区のまちの機能や人の流れが大きく変わることが予測されることから、市は中央ビルを利用した駐車場問題、勝間園の改築、旧サンマルコ跡地等、臼田地区の課題も含め、総合的に土地の有効活用を検討すべきである。また、臼田地区の課題について地区住民・病院関係者と情報を共有すべきである。
 4. 臼田地区のまちの活力を更に維持・向上させるため、一定の権限と予算をもった（仮称）「臼田地区自治協議会」をつくり、行政と連携して協働のまちづくりを継続していける体制づくりが必要である。そして、この協議会を支えるための臼田支所の機能の拡充と強化を図ることが望ましい。

I 医療と健康・福祉・介護のまちづくり

1 医療

佐久総合病院の再構築により、中込中央区の佐久医療センターは急性期医療や専門医療に特化し、また、臼田地区の佐久総合病院本院は、慢性疾患など一般医療機能を中心として機能分割されることとなる。

これは、東信地区全体の医療体制の見直し・整備につながり、地域完結型医療体制の基礎となることから、住民は、このことを正しく理解し、開業医を含めた地元医療機関を適切に利用すべきである。また、地域完結型医療体制の構築には地元医療機関・地元住民の理解と協力が不可欠であることから、病院は、地元医療機関・地域住民・各種団体との連携を強化し、継続的な懇談会・学習会等を通じ理解と協力を求めることが必要である。

- (1) 病院は、市と連携して、気軽に立ち寄れる相談コーナー（よろず相談所）等を設置すべきである。ここでは、「受診する程ではないが、ちょっと心配」、「誰に相談していいのかわからない」等の健康についての悩み相談ができ、知識と経験豊富な退職看護師・保健師等が対応することが

望ましい。

- (2) 住民は、開業医を含めたかかりつけ医をもつべきである。また、佐久総合病院は地元医療機関との連携を一層強化し、住民の健康を守るべきである。
- (3) 患者と医療機関（佐久総合病院・開業医）との間は、お互いに「ありがとう」の心を持った信頼関係・コミュニケーションの充実を図っていくことが必要である。
- (4) 佐久総合病院と住民、各種団体との連携を強化し、医療に対することなど気軽に参加できる勉強会や定期的な懇談会等を開催し、ともに学び、語り合える場が必要である。
- (5) 住民は、24時間365日在宅生活を支援している病院の地域ケア部門の現状について理解し、当該スタッフを支えていく役割を果たすことが望ましい。

2 保健・健康

臼田地区は従来より保健予防事業の充実した地域であり、要介護度の高い高齢者の割合が少ないなど保健予防事業の成果がみられている。しかしながら、今後高齢化の加速により、介護保険料や医療費の負担が増していくものと予想される。

したがって、健康管理については、自分の健康状態を把握することのできるシステムを構築し、さらに施設整備を含め、保健予防事業の更なる充実を図るべきである。

- (1) 子どもから高齢者まで、住民誰もが個々の健康状態を把握できる健康管理システムの構築をすべきである。
- (2) 疾病や傷害を予防するための各種教室を更に充実させていくべきである。また、市民の健康増進のため地域の既存施設等を有効的に利用を図るとともに、施設や設備の整備を検討すべきである。
- (3) お産や幼児の病気などについての住民向け相談会・勉強会を定期的に開催し、子育ての悩みを共有し、知識を得る場を提供すべきである。また、病児保育・病後児保育所を建設し、子どもが病気になっても安心して働くことのできる環境整備をするとともに、「子育て応援隊」的なスタッフの育成・支援が必要である。

3 福祉・介護

臼田地区は、佐久総合病院や福祉施設があることから、他の地区より在宅医療や在宅介護が充実している。

しかしながら、健常者も障がい者も一緒に暮らしていく観点から、地域福祉を地域全体で支えるという意識改革と、住民、病院、福祉施設、行政が一体となって支えるシステムづくりをすべきである。

- (1) 介護者・家族の負担を軽減するため、病院・福祉施設・在宅と更なる連携を図り、在宅介護・在宅医療の一層の充実を図るべきである。また、行政はそれぞれと連携を図るとともに、介護者・家族を支援する施策を検討すべきである。
- (2) 臼田地区には、保健予防事業の充実により、健康に対する意識が高い住民が多い。また、年齢を重ねても知識・経験を活かして社会貢献の場を求め方も多いことから、市と病院は介護や子育てに悩む住民のために、これらの高齢者の活躍の場として、ボランティア組織の創出や活動支援をすべきである。
- (3) 臼田地区内には、高齢者住宅やグループホーム等が少ないのが現状である。今後更に、高齢化が進むとともに高齢者の住居のニーズの多様化も予想されることから、佐久総合病院周辺にこれらの施設の建設を進めることが必要である。
- (4) 住民ニーズに沿う、人生の終末期に寄り添い支えるための医療の充実を図ることが望ましい。

4 開かれた病院づくり

今後、臼田地区は佐久総合病院の再構築により、地域完結型医療体制の構築が図られ、地域医療への取り組みが更に充実することが予測される。

また、歴史的にも臼田地区住民の佐久総合病院への思いは深いものがあるため、再構築後も「お私たちの病院」であることから、病院は地域との交流・文化活動を通じて、更に地域の再生・発展に貢献することが必要である。

- (1) 病院は、患者の寛ぎの場、見舞い客との面会の場、地域住民の交流の場として以下のスペースを充実すべきである。
 - ① 各病棟に絵画を飾り、見舞い客との面会室、患者の寛ぎの場となる部屋。
 - ② 医療・健康・患者体験記などが充実した図書室。患者・地域住民が利用可能。
 - ③ 1階ギャラリーの継続と充実。色々な文化活動の紹介。
 - ④ 病院敷地内に、地元産の安全な農産物の販売施設。

- (2) 病院は、開かれた病院運営のために「院外運営委員会」に一般市民の代表を加え、市民の声を反映させていくことが必要である。
- (3) 病院、行政、住民が協力し、独身の医師・看護師・医療従事者・看護学生と地元独身者との交流会を定期的に開催することが望ましい。

Ⅱ 便利で活力のあるまちづくり

1 経済

臼田地区は、佐久総合病院を中心としたコンパクトシティエリアで「医療・健康・福祉のまち」として、経済の活性化を目指し、特色あるまちづくりをすべきである。

- (1) 日常生活の衣食住のニーズを地元でまかなえるような各種店舗の充実
 - ① 消費者のニーズを把握するため、住民アンケートなどを実施し、必要なモノ・サービスの充足を地元商店街に依頼すべきである。
 - ② 商店街に点在する空き店舗対策として、市のホームページ等に情報を掲載する。商店街は、自らの店を魅力あるものにすべく、住民ニーズの把握に努めることが必要である。
 - ③ 買い物弱者・交通弱者対策として、乗り合いタクシー・巡回ミニバスの整備をすべきである。
- (2) 医療・健康・福祉など佐久総合病院に関連した特色ある店舗の充実
 - ① 医療・健康・福祉など、医療の周辺産業の積極的誘致と、空き店舗への優先的入居を検討すべきである。
 - ② 医療の周辺産業に関わる店舗は、優先的に病院周辺へ集約し、医療・健康・福祉のまちを印象づけることが望ましい。
 - ③ 佐久総合病院内で、使用する食材・資機材を地元事業者で賄い、院内施設のメンテナンスなども地元事業者が請負うことが必要である。また、地元事業者は、病院のニーズに応えられるようスキルアップをすべきである。
- (3) コンパクトシティ周辺部の活性化
 - ① 地域外からの来訪者が、「また来たい」と思えるような楽しみ・ゆとりのある施設、複合的オアシス広場をコンパクトシティ内に設置することが必要である。この広場は、臼田地区の総合的な情報の発信源となり、観光案内所や高速バス発着所、また道の駅・まちの駅的な地元農産物等の直売所を併設することが必要である。
 - ② 複合的オアシス広場の観光案内所では、来訪者に臼田地区の観光案内、宿泊案内を行い、周辺部にも集客を促し、交流人口の創出に寄与することが必要である。

- ③ 病院入院患者の付き添い者も利用できる宿泊施設の整備や、誰でも気軽に寄れるワンコイン銭湯の設置が望ましい。

(4) 商工会の活動とまちづくりへの関わり

- ① 会員個々や支部ごとの事業の活動だけでなく、臼田町商工会として更なる積極的なまちづくり、まちおこしにつながる活動が必要である。
- ② 特に商業部門において、地産地消の推進、空き店舗貸出仲介、買い物弱者対策等、消費者ニーズに応える事業展開が必要である。

2 観光

臼田地区は、「医療・健康・福祉のまち」としてアピールするとともに、既存の観光資源を活かし、関係者が一体となって観光情報を発信すべきである。

また、今後コンパクトシティ内から周辺部へのアクセスを整備し、佐久総合病院来院者を含めた臼田地区への来訪者が、「また来たい」と思い、憩うことのできる観光資源をアピールすることが必要である。

- (1) 龍岡城五稜郭・川村吾蔵記念館・新海三社神社・稲荷山・パラボナアンテナ等既存する観光資源を活かして、ウォーキング・自転車・自動車等で周遊できるコースを設定し、行政だけで紹介するのではなく、佐久総合病院、臼田町商工会、JA、商店街、JR等あらゆる場所で情報発信すべきである。また、周遊コースはそれぞれ色別のカラー舗装をすることが望ましい。
- (2) 観光施設、観光資源等の案内看板、表示板を統一なデザインにし、遠方者や初めての来訪者等がどちらから訪れてもわかりやすいように設置すべきである。また、臼田スタードームへの案内看板等は、夜でも見やすいものにすることが必要である。
- (3) 商工会三反田支部において実施されている「まちなかレンタサイクル事業」を、臼田地区全体に広め、観光客の利便性を向上させ、滞在時間の延長による地区住民との触れ合い、商店街への流入等を図ることが必要である。
- (4) 人間ドッグ受診者を対象にした、臼田地区の観光ツアーを関係団体と協力して計画し、国内はもとより、中国・韓国等外国人も対象として交流人口の創出を図ることが望ましい。
- (5) 臼田地区の先人である、大給恒・川村吾蔵・若月俊一・井出一太郎・田河水泡・丸岡秀子・竹内好等を紹介する記念館等を設置することが望ましい。

3 道路・駐車場

コンパクトシティ内の駐車場は、佐久市臼田支所、郵便局、銀行、佐久総合病院、商店等に訪れた方々、誰もが利用できる共有の駐車場（立体駐車場）として整備し、併せてシティ内の道路・歩道の整備をすべきである。

- (1) 河川敷駐車場は廃止し、自然公園として整備すべきである。
- (2) 臼田中央ビルは解体し、共有の駐車場として整備するとともに、ビル西側の佐久総合病院所有の駐車場も並列して、共有駐車場として整備すべきである。
- (3) 佐久総合病院本院の敷地内に整備予定の患者用駐車場は、佐久総合病院前交差点から進入するよう整備すべきである。
- (4) 病院所有土地や空き医師住宅地等の有効利用を検討し、複数の患者用駐車場を整備することが必要である。
- (5) 各駐車場からシティ内各所への歩道は、できるだけ広く、段差がなく、また休息できるベンチを整備することが必要である。特に車いすで安心して通行できるように歩道部分を、カラー舗装等で特徴づけをし、明るい町なみに整備することが必要である。

4 医療・健康・福祉

臼田地区は、「世界最高健康都市」のモデル地区としてその実現に向けた具体的な事業を検討し、新たなまちづくりを進めるべきである。

- (1) 高齢者向け有料住宅の誘致、建設等を推進
 - ① 「医療・健康・福祉のまち」として、コンパクトシティ内に高齢者向け有料住宅の誘致・建設を推進し、安心して住めるまちを内外に発信すべきである。
 - ② 勝間園は、佐久総合病院周辺に移転することが必要である。
 - ③ 佐久総合病院、老人福祉施設等への介護スタッフ、配食サービス等を提供できるように、臼田地区内の関連事業者は更なるスキルアップを図ることが必要である。
- (2) 子どもへのケア、働く親世代の子育てサービスの更なる充実
 - ① コンパクトシティ内、あるいは佐久総合病院内に、子どもの一時預かり所等を設置し、来院者が安心して受診やお見舞いができるサービスの充実を図ることが望ましい。
 - ② コンパクトシティ内に、自習室やミニ図書館の整備された子どもたちのコミュニティ施設を整備することが望ましい。

(3) 佐久総合病院と地域住民との更なる連携

- ① 佐久総合病院本院基本構想実現のために、行政や地域住民と更なる連携を深めて再構築を進めることが必要である。
- ② 病院内で使用する食材は、可能な限り地元産の農産物を使うことが必要である。
- ③ 老人福祉施設や高齢者有料住宅等への訪問看護のフォローをすることが必要である。
- ④ 看護専門学校の拡充と各医療職の有資格者を養成する部門を創設・誘致し、地域の将来を担う医療関係者の育成が必要である。
- ⑤ 佐久総合病院本院のロビー・エレベーターホールなど、多くの人が行き交う場所には、臼田高等学校生徒の作成したステンドグラス等を利用することが望ましい。

Ⅲ 安全・安心・やさしいまちづくり

1 佐久総合病院西側道路の歩道整備

佐久総合病院西側の市道は歩道が設置されてはいるが、車道より高い位置にあるため車道からの傾斜がきつく、幅員も十分ではないことから車いすでの利用が快適であるとはいえない現状である。

佐久総合病院の再構築後は、病院敷地内及び病院周辺地域をリハビリのために有効的な利用を図り、回復に寄与できる環境を整備すべきである。

- (1) コンパクトシティ内の歩道の傾斜を緩やかにし、車いすでもすれ違い可能な 3.5mの幅に整備すべきである。特に、臼田中央交差点から下小田切交差点は、両側に歩道の整備をすべきである。
- (2) 病院敷地から中央商店街に、車いすでもアクセスできる歩道の整備をすべきである。
- (3) 歩道には、環境にやさしい自然エネルギー等を利用した安全灯を設置することが必要である。

2 佐久総合病院東側道路の拡幅整備

佐久総合病院東側道路は、現在多くの車両が通行し来院者の利用も多いが、幅員が狭く車両のすれちがいがスムーズにできない。また、歩道がないため歩行者の安全が確保されているとはいいがたい現状である。

佐久総合病院の周辺は、今まで以上にリハビリ環境の充実が求められることから、病院東側道路を拡幅整備し、車いす利用者やリハビリ患者が安全に

利用できる歩道を整備すべきである。

- (1) 佐久総合病院東側道路は、センターラインがあり、車両同士が安全にすれ違いできるように拡幅すべきである。
- (2) 桜並木の景観を維持しつつ、車いすが安全にすれ違いのできる歩道を設置すべきである。
- (3) 歩行者の安全を確保するため、環境にやさしい自然エネルギー等を利用した安全灯を設置することが必要である。

3 千曲川遊歩道と歩道橋の設置

千曲川にかかる臼田橋・住吉橋は、浅間山・八ヶ岳が望め、リハビリや市民の散歩コースに適しているといえる。入院・通院患者と共に地域住民の健康増進のため、臼田橋から住吉橋までの間、兩岸を一周できる遊歩道と半周コースも可能となる歩道橋の整備をすべきである。

- (1) 車いすでも安全にすれ違いできるように、歩道幅員は 3.5m にすべきである。また、回復期のリハビリ患者も利用すると考えられることから、足に負担のかからないクッション性の高い素材を使用することが必要である。
- (2) 休息の場として、ベンチ等を数箇所設置すべきである。
- (3) 遊歩道の半周コースとともに、佐久総合病院の入院患者と小中学校との交流を推進するためにも、千曲川に歩道橋を設置すべきである。この歩道橋は、車両・二輪車の進入は禁止し、車止めのゲートなどを設置し車いす同士のすれ違いが安全にできる幅にすべきである。
- (4) 環境にやさしい自然エネルギー等を利用した安全灯を設置することが必要である。

4 公園整備

患者と市民の憩いの場、子ども達が安全に遊べる場所として、現在の佐久総合病院河川敷駐車場の位置に、自然公園を設置すべきである。

- (1) 河川敷であることから遊具などの固定施設は設置せず、子ども達が安全に遊べる自然公園の整備をすることが必要である。
- (2) 公園は千曲川の増水などに配慮し、災害対策を十分に施すべきである。

- (3) 環境にやさしい自然エネルギー等を利用した安全灯を設置することが必要である。
- (4) 休息の場として、ベンチ等を設置することが望ましい。

5 駐車場整備

千曲川遊歩道や公園等の利用者のために、千曲川の両岸に駐車場を整備すべきである。

- (1) 稲荷山北の佐久総合病院職員駐車場は、稲荷山公園や自然公園用の駐車場として整備すべきである。
- (2) 現在の町誌編纂室（旧公民館）を解体し、千曲川遊歩道や自然公園利用者のための駐車場として整備すべきである。
- (3) 環境にやさしい自然エネルギー等を利用した安全灯を設置することが必要である。

臼田協働まちづくりワークショップ開催状況

第1回	平成22年10月30日（土）	参加者45人	
第2回	平成22年11月25日（木）	参加者48人	
第3回	平成23年1月18日（火）	参加者44人	
第4回	平成23年2月24日（木）	参加者27人	
第5回	平成23年5月19日（木）	参加者39人	
第6回	平成23年6月27日（月）	健康グループ	参加者11人
	平成23年6月27日（月）	活力グループ	参加者13人
	平成23年6月27日（月）	安全グループ	参加者8人
第7回	平成23年7月19日（火）	活力グループ	参加者18人
	平成23年7月21日（木）	健康グループ	参加者9人
	平成23年7月21日（木）	安全グループ	参加者8人
第8回	平成23年8月22日（月）	健康グループ	参加者10人
	平成23年8月23日（火）	活力グループ	参加者13人
	平成23年8月25日（木）	安全グループ	参加者10人
第9回	平成23年9月27日（火）	健康グループ	参加者10人
	平成23年9月27日（火）	活力グループ	参加者14人
	平成23年9月27日（火）	安全グループ	参加者8人
第10回	平成23年10月25日（火）	活力グループ	参加者10人
	平成23年10月27日（木）	健康グループ	参加者9人
	平成23年10月27日（木）	安全グループ	参加者6人
第11回	平成23年11月24日（木）	健康グループ	参加者5人
	平成23年11月24日（木）	活力グループ	参加者10人
	平成23年11月24日（木）	安全グループ	参加者6人
第12回	平成23年12月19日（月）	健康グループ	参加者8人
	平成23年12月20日（火）	活力グループ	参加者9人
	平成23年12月22日（木）	安全グループ	参加者5人
第13回	平成24年1月16日（月）	安全グループ	参加者9人
	平成24年1月23日（月）	健康グループ	参加者8人
	平成24年1月23日（月）	活力グループ	参加者14人
第14回	平成24年2月20日（月）	参加者29人	